

中小企業タイムズ

Small and Medium Enterprises Times 山梨県中小企業団体中央会機関誌

定価100円

昭和36年4月10日

第三種郵便物認可

会員の購読料は賦課金の中に含まれます。

今月の見どころ

- 食品関連業界の動向……………1面
- 施策情報……………2面
- 景況情報・オピニオン……………3面
- 組合活動あれこれ……………4面
- 取材記事……………5面
- インターンシップ体験記……………6面

10 December

2017年
第731/306号
(毎月1日発行)

9月の出来事

●時事

- 3日 秋篠宮家の長女眞子さま婚約内定
- 6日 大規模太陽フレア発生
- 13日 新型iPhone発表
- 15日 北朝鮮が弾道ミサイル発射
- 18日 米トイザらス経営破綻

●山梨県中央会ニュース

- 7日 本気の就活を応援!!合同就職ガイダンス
- 29日 中央会正副会長会議
- 10月の予定
- 10日 中央会事務局代表者会議
- 16日 静岡県・山梨県トップ会議
- 26日 第69回中小企業団体全国大会

食品製造業界を取り巻く新たな動き

補助金活用や事業者連携により新たな商品開発と販路開拓に挑む

食品業界を取り巻く環境が大きく変化している。

これまでは、原料である農産物の生産者、食品を製造するメーカー、消費者ニーズを把握して販売展開を行う流通業者といった分業と連携の体制が組まれていたが、業際を超えて新分野に乗り出す事業者や新たな連携を模索する事業者が増え始めている。県内の食品製造関係の組合や事業者の新たな展開について紹介をする。

1 山梨県パン協同組合の 県産小麦を活用した取り組み

山梨県パン協同組合(小野曜理事長)は、今年度、「国内産麦利用拡大推進事業助成金」を活用し、生産拡大が見込まれる県産小麦「ゆめかおり」と「富士山酵母」を組み合わせたパンの開発を進めており、県産小麦を活用したパンの消費拡大を図る事業に取り組んでいる。

現在、サンドイッチレシピと県産小麦粉の愛称を募集する「サンドイッチグランプリ」を実施しており、メディアミックスによる広報展開を図ることで組合及び組合加盟店の認知度の向上と売上拡大を図っている。

2 山梨県酒造組合の 日本酒認証制度の取り組み

山梨県酒造組合(北原兵庫会長)は、本年2月に地域資源活用事業計画の認定を受け、国からの5年間の補助を活用し、県産酒米と県内5水系の水を使って醸造することを基準とした「山梨県原産地呼称日本酒認証制度(仮称)」の創設に取り組んでいる。組合員が醸造する純米酒、低アルコール日本酒、微発泡日本酒の高品質化に取り組み、製造工程のマニュアル化と組合員間での情報共有、各社の新製品開発のコスト低減や技術向上等を目指している。

また組合では、各水系の特徴を活かした味わいの異なる純米酒を楽しめるセット商品の開発をはじめ、国内外の市場の変化に対応した販路開拓事業にも取り組むなど県産日本酒のブランド化にも取り組んでいる。



サンドイッチグランプリ募集案内



名水が育む「山梨の日本酒」で乾杯!

3 株式会社オオキの顧客支援の取り組み

創業70周年を迎えた(株)オオキ(中央市 大木賢太郎社長)はこれまで包装資材等の卸売りをやってきたが、現在、商品の開発・製造・販路・デザイン・マーケティングを含めた「パッケージプロデューサー」としての顧客支援に力を入れている。

9月5~6日にかけて開催された「2017 PACKAGE FAIR」では、基調講演で今後義務化が予定されているHACCP(食品製造上の管理基準の総称)導入のメリットや事例の紹介を行うとともに、失敗経験からヒット商品を生み出す発想のヒントや組織体制についての説明が行われた。また、商品の保護・利便性に役立つ高機能・高付加価値で環境に優しい包装資材の展示・説明、機器業者による食品加工の実演などもあり、食品製造を検討している農業者を含めて様々な有益な情報が提供された。

4 武田食品株式会社のマッチングの取り組み

食料品卸売業の武田食品(株)(甲府市 渡辺玉彦社長)は、平成23年より食品メーカーと食品バイヤーとのサポートを目的に「山梨フード&リカーフェア」を毎年2回開催してきた。前回からは、「山梨こだわり食品フェア」と題したブースを設置し、6次産業化に取り組む県内の事業者にも出展を呼びかけている。

「山梨の飲食シーンをもっと元気に」をコンセプトに9月20日に開催

されたフェアには、6次産業化に取り組む事業者も多数出展し、試食・試飲を通じて商品のブラッシュアップのヒントを得るなど、ユーザー視点の商品開発に積極的に取り組むようになりつつある。



山梨フード&リカーフェア

5 やまなし美味しい甲斐のアンテナショップの取り組み

当法人は、県の「美味しい甲斐開発プロジェクト」を活用し商品開発をした事業者が中心になって設立した法人で、(株)良品が事務局を担っている。

本年度は、全国商工会連合会の販路開拓支援事業の補助を受け、JR立川駅隣接のグランデュオ立川1階とJR甲府駅の上りホーム内にアンテナショップを設置し、県産農産物の加工品の販売を行うとともに、首都圏における販売動向及び土産品としての販売動向について把握し、来年度以降の更なる販売展開のため情報収集に取り組んでいる。

中央会では、これまで農商工連携、6次産業化、ものづくり補助金など様々な施策活用の支援を行い、食品製造業と業界の支援を行ってきた。商品開発の成功の鍵は、プロダクトアウトではなくマーケットインの発想であると言われており、今後も、中央会の持つネットワークを駆使し、補助事業の効果的な活用、事業者や組織間の連携による販路開拓につとめながら、支援を強化していく。

人材の育成に悩みを抱えている事業者の皆さま!

助成金を活用して、人材育成してみませんか?

「人材開発支援助成金(訓練関連)」のご案内

人材不足が顕著になりつつある現在、雇用する人材の育成は企業にとって重要な課題となっています。意欲的に働き、企業に貢献できる人材となってもらうため、助成金を活用して人材育成に取り組んでみませんか?

◆ 概 要

職業訓練などを実施する事業主等に対して訓練経費や訓練中の賃金を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進します。

支給対象訓練	対 象	助成内容	助成率・助成額 ※()内は中小企業以外	
				生産性要件を満たす場合
特定訓練コース	中小企業以外 中小企業事業主団体等	・労働生産性の向上に直結する訓練 ・一定の要件を満たす雇用型訓練(認定実習併用職業訓練、中高年齢者雇用型訓練)、若年労働者への訓練、熟練技能者による技能承継訓練等について助成	OFF-JT 経費助成：45(30)% 60(45)% ^{※1} 賃金助成：760(380)円	OFF-JT 経費助成：60(45)% 75(60)% ^{※1} 賃金助成：960(480)円
			OJT<雇用型訓練に限る> 実施助成：665(380)円	OJT<雇用型訓練に限る> 実施助成：840(480)円
一般訓練コース	中小企業事業主団体等	・特定訓練コース以外の訓練	OFF-JT 経費助成：30% 賃金助成：380円	OFF-JT 経費助成：45% 賃金助成：480円

※備考：事業所ごとの1年度内における助成上限額は1,000万円(一般訓練コースだけ活用する場合は500万円)。
：特定訓練コースの助成対象訓練時間は10時間以上(一般訓練コースは20時間以上)。
※1：雇用型訓練において、建設業、製造業、情報通信業その他高度で実践的な訓練の必要性の高い分野(特定分野)の場合。
：若者雇用促進法に基づく認定事業主又はセルフ・キャリアドック導入企業の場合。

◆ 活用事例 ▶▶ 電気工事業／従業員10名

- 背景・課題

新卒者は資格を有していないため、資格取得のための知識技能を習得させる必要があった。ベテラン社員の退職により、有資格者が少なくなり、即戦力が必要となった。技術革新のスピードが速く、既存技術はもとより最新のノウハウを習得しなければならないため、常にアンテナを張っている人材に育成することが課題である。
- 人材開発支援助成金の活用

(1)教育訓練の内容

 - 教育訓練機関：県立訓練センター
 - 受 講 コ ー ス：第二種電気工事士(技能)研修
 - 訓 練 目 標：第二種電気工事士資格取得
 - 訓 練 時 間：18時間/人
 - 受 講 料：36,000円/人

(2)助成金のコース：特定訓練コース(若年者人材育成訓練)

 - 概 要：訓練開始日において、雇用契約締結後5年以内に35歳未満の若年労働者に対する訓練を実施した場合に、助成が受けられる。
 - 助 成 率 ・ 額：〈Off-JT〉※生産性要件を満たしている場合
経費助成60% 賃金助成960円/h
- 助成金の額(一人あたり)

○助成対象経費、賃金

 - (1)第二種電気工事士(技能)研修受講料等(36,000円)
 - (2)訓練時間に対する賃金助成(960円/h)

○支給額

 - 〈Off-JT〉 ①経費助成：21,600円(受講料×60%)
 - ②賃金助成：17,200円(18h×960円)

支給総額：38,800円 ※100円未満切り捨て
- 訓練の効果・今後の展開

電気工事の仕事では、電気工事士の資格が必要となるため、講習を受講させることで即戦力となる人材の育成に役立った。今後は、第一種電気工事士資格取得のための研修も検討。

【お問い合わせ】 山梨労働局 職業安定部 訓練室 / TEL 055-225-2861 FAX 055-225-2786

有期契約労働者の無期転換をきっかけに

平成25年4月の改正労働契約法で導入された「有期契約労働者の無期転換ルール」が、5年を経過する来年4月から本格的な転換時期を迎える。

このルールは、有期契約の労働者の雇い止め不安の解消や処遇の改善を目的に、同一の事業主との有期雇用契約が5年を超え繰り返し更新されている場合は、労働者からの申し入れにより無期労働契約に転換するもので、申し入れを受けた事業主は、条件面での一定の配慮もあるが、拒むことはできないこととなっている。

一方、最近の雇用環境は法律制定時の5年前に比べ大きく様変わりした。

少子化による生産年齢人口の減少の影響で人手不足が顕著となり、有効求人倍率はバブル期を超え、採用条件を良くしなければ応募者が来ない状況となっている。しかし、先行きが見えにくい経営環境の中で、賃金アップや正社員を増やすことへのリスクも大きい。また、休業日が少なく営業時間も長い小売業やサービス業では、多数の短時間労働者のシフトを組まなければ営業が成り立たないという実態があり、コンビニ業界では

自動販売機による無人店舗の展開まで計画されるに至っている。

政府も、「働き方改革」の中で、長時間労働の改善や非正規と正社員の格差是正などの取り組みによって働く人のモチベーションや企業の労働生産性のアップを実現し、所得向上と内需拡大を国の経済成長につなげたいとしている。

企業の生き残りのためには、他社に先駆けて従業員の待遇改善や賃金アップに取り組むことも、必要かもしれない。しかし、雇用条件のアップだけでは若い人材が集まらなくなっている業種・業界も出てきており、1社だけの取り組みも限界もある。業界としてイメージアップを行い、貴重な人材をどのように雇い育て企業や業界の存続につなげていくのかというコンセンサスをつくる「共同での働き方改革」の取り組みが必要になっているのではないだろうか。



データから見た

業界の動き

平成29年

8月分

情報連絡員からの景況報告の概要

平成29年8月の山梨県内の全業種のDI値は、前年同月比では、売上高は26ポイント、収益状況は8ポイント、景況感は14ポイントそれぞれ改善した。

前月比で比較すると景況感は2ポイント悪化した。売上高は22ポイント、収益状況は8ポイント改善する結果となった。

製造業では、IoTをはじめとしたスマートフォンや自動車部品などの半導体市場及び産業機械関連などが継続して好調であることが要因と考えられ、この状況はしばらく続くと思われている。

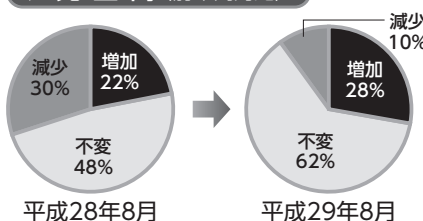
非製造業においては、建設業界の工事量の増加により、売上増加につながったが、人手不足から受注を控える報告もあった。

今回同時に行った、「現在の中小企業者が対応すべき課題について」の調査では、テロ活動やミサイル発射実験などによる緊迫した国際情勢への対応や、地震・台風などの災害が国内外で発生していることを背景に事業継続計画(BCP)策定の必要性を感じる事業者が多くあった。この他、人材不足は全業種の課題となっており、この対策として業種・業界に興味を持ってもらう為にインターンシップ受け入れの必要性が浸透してきている。併せて、職場の環境改善や福利厚生充実など課題解決に取り組みをはじめた事例などの報告もあった。表面上では景気の回復感を感じさせるが、これを持続させるためには、多くの課題への対応が必要であることが伺える。



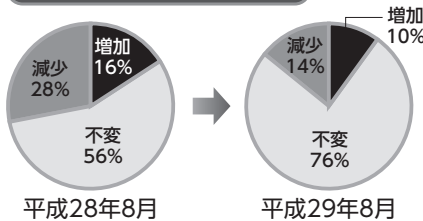
データから見た業界の動き(平成29年8月分)

売上高(前年同月比)



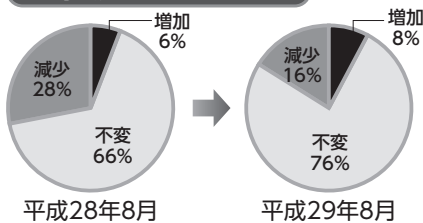
- DI値+18(前年同月比+26)
- 業種別DI値
 - 製造業 +30(前年同月比+40)
 - 非製造業 +10(前年同月比+17)
- 前月比DI値
 - 製造業 25ポイント改善
 - 非製造業 20ポイント悪化

収益状況(前年同月比)



- DI値▲4(前年同月比+8)
- 業種別DI値
 - 製造業 ±0(前年同月比+15)
 - 非製造業 ▲7(前年同月比+3)
- 前月比DI値
 - 製造業 5ポイント改善
 - 非製造業 10ポイント改善

景況感(前年同月比)



- DI値▲8(前年同月比+14)
- 業種別DI値
 - 製造業 ▲5(前年同月比+10)
 - 非製造業 ▲10(前年同月比+17)
- 前月比DI値
 - 製造業 不変
 - 非製造業 2ポイント改善

業界からの報告

製造業

- 食料品(水産物加工)／ギフト関係、業務用食材の売上が改善され、おせちの前倒し出荷が大きく影響し全体の売上は前年同月比で111.4%。
- 食料品(洋菓子製造)／自社製品は専門店、量販店向け共に前年を上回ったが、輸出向けが大きく落ち込みは前年比95.7%。OEM製品で焼き菓子が前年同月比106.7%と順調。
- 食料品(パン・菓子製造業)／売上は前年同月比より3%増加。原材料は高騰しているが、市場はデフレであり利益の出しにくい状況。
- 食料品(酒類製造業)／7月の降雨量が少なくワインの原料であるブドウの出来が心配。
- 繊維・同製品(織物)／発注が少なく厳しい状況。
- 木材・木製品製造／販売価格が10%増加し、売上は前年同月比で12%増加。プレカット加工のみの発注は低調。
- 窯業・土石(砂利)／前年と比較し骨材需要

は増加しているが、全体として例年とさほど変化がない。

- 窯業・土石(山砕石)／売上は前年同月比から微増。しかし出荷量では前年同月比からは1%悪化、前月比では5.5%悪化し景況感は悪く感じる。出荷の多くは県外の大型公共工事であり、県内事業の発注を期待。
- 鉄鋼・金属／7月からは横ばいだが、前年同月比では売上5%、収益は2%それぞれ好転。
- 一般機器／7月に電子部品(半導体)の増産があり業界の景気は好転。輸出はEU向けが順調なのに対し、中国向けは減少傾向。
- 一般機器／人手不足が課題である。
- 電気機器／発注時期の遅れから、納期が短縮され、時間外・休日勤務の人件費・コストが増加。
- 電気機器／航空機関連は取引は低水準で推移しており、今後も続くと考えられる。今秋以後コストダウンの要求が予定され航空機業界から離れていく企業が増えてきている。

非製造業

- 卸売(ジュエリー)／8月末の展示会は出展者及び来場者数ともに減少。9月は海外(バンコク・香港)の展示会があり中国バイヤーの購入量に期待。
- 小売(青果)／野菜等の出荷量が減少したため、売価が高騰。贈答用果実が高値により取引され売上高は前年同月比から7.8%増加。
- 小売(食肉)／国産豚・牛ともにお盆の時期に相場が上がった。特に国産豚の出荷頭数の減少が続き、販売価格は上昇。
- 小売(石油)／北朝鮮情勢の影響で原油価格への影響が懸念されたが現在は安定しており、卸売価格が安定したことにより、小売価格にも変動はみられない。
- 宿泊業／8月は台風の影響により花火のイベントや行事が延期・中止となり団体客のキャンセルが相次いだ。交通機関の乱れから帰宅困難者の宿泊が増えたことから、結果的に前年同月比を維持。
- 産業廃棄物処理／廃棄物は国内で再生されるが、低品質な廃プラスチック、金属くずについては中国へ輸出し処理が行われてきたが、環境汚染の対策から中国から外国ごみの輸入を年内に停止することが通告されたことに伴い、今後国内のスクラップ業者に混乱が起こることが予想される。
- 一般廃棄物処理／公共施設の一般廃棄物の高額な処理料金を、排出事業者の契約料金に反映できないため、人件費や車両費のコスト上昇を吸収できず収益が圧迫。

- 警備業／公共事業の前倒しや中部横断道に関連した工事等の増加に伴い警備員の派遣要請は多いものの、警備員不足から十分に雇えない状況が続いている。警備料金は引上があったが、警備員に対する社会保険や傷害保険等の加入に伴い会社負担も増加し利益は微増。国土交通省から警備員不足対策とした交通誘導員の円滑な確保について通知され、今後注意深く動向を探っていく。
- 建設業(総合)／8月の県内公共工事動向は、前年同月比で契約件数は11%減少しているものの、請負金額は5%増加している。今年度の累計では件数は5%、請負金額は14%共に減少した。
- 建設業(木造建築)／技術者の高齢化と、後継者不足が課題。
- 建設業(型枠)／前月に引き続き工事量が増加した。この現象は年内は続くと考えられる。一方工事単価は上らず、人件費と材料費の高騰から収益増にはつながらない企業が多くみられる。
- 建設業(鉄構)／県内の発注が少なく、首都圏の物件に依存する割合が高い。
- 設備工事(管設備)／業界の景気動向は住宅工事の減少により悪化。国が推進する働き方改革は、人材不足により実現には遠い。
- 運輸(タクシー)／8月は台風による交通機関の乱れから、乗客数が増加し前年同月比から売上2.8%増加。

オピニオン opinion

●上野原機械器具工業協同組合 理事長 鈴木 誠一氏

組合活動は『恕』の精神から

上野原地域は、中央線で東京都心から約70分と山梨県の東の玄関口とも言われています。今から千年程前に織物製品が交易品として商いされるようになり、時代の移り変わりとともに本格的な商売として発展、生産量も拡大し現在の産業の基盤ができました。

昭和に入り、佐波芳雄氏(現在の㈱サワの創業者)が織物機械を修理する鉄工所を7年に開始、『佐波式織機』の開発などをきっかけに機械金属加工を中心とした工業が盛んになってきました。

上野原地域は、機械金属加工を基礎に、戦後大企業が集積する京浜工業地帯との取り引きが活発化することで発展。当組合は昭和29年に県下第1号の協同組合として事業主4社で設立されました。

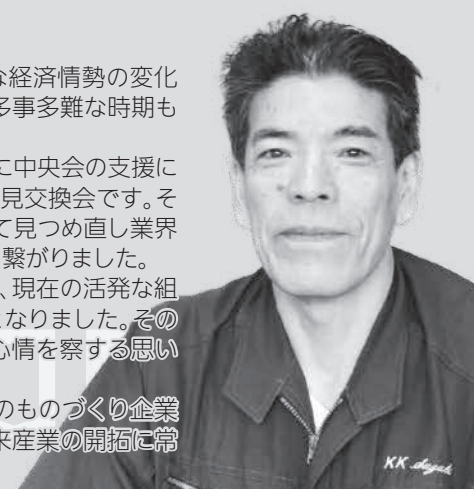
これまで組合の事業として、相互に親睦を図るための体育祭や研修旅行、人材確保推進事業、労働時間設定改善事業などの職場環境改善事業の実施、また、工業団地構想計画などにもかかわり、上野原市の産業に大きく貢献してきました。しかしながら、オイルショック、バブルの崩壊、生

産拠点の海外移転や大手企業の撤退などのさまざまな経済情勢の変化により組合員が減少、組合活動にも支障を来すほどの多事多難な時期もありました。

その時に組合の状況を大きく変えたのが、平成18年に中央会の支援により開催した『将来の中小零細企業の危機』と題した意見交換会です。その中で、中小零細製造業者の置かれている状況を改めて見つめ直し業界の将来展望を模索できたことが、組合員の意識改革にも繋がりました。

組合員が共有できた将来へ向けての前向きな想いが、現在の活発な組合活動や危機に直面した際にも一致団結できる素地となりました。その時の中央会の年間活動テーマ『恕の心(他人の立場や心情を察する思いやり)』は現在の組合のスローガンにもなっています。

激変する経済社会において、これからも上野原地域のものづくり企業の組織として発展を目指し、県内外への情報発信と未来産業の開拓に常にチャレンジしていきたいと考えています。



県産材の活用を目指して

●山梨県木材製品流通センター協同組合

TOPICS

山梨県木材製品流通センター協同組合(戸栗敏理事長、組合員23社)は、9月7日に県立甲府城西高校の「リビングデザイン」履修者27名の視察を受け入れ、木造住宅の特徴やプレカット加工の流れ、現場への搬入と上棟まで行っている組合の事業の説明を行った。

この取り組みは高校側からの要請により実現したもので、組合では履修者の中から将来ハウ



施設見学を行う甲府城西高校生徒

デザイナーが誕生し、豊富な山梨県の木材を活用した住まいのデザ

インに活かされるようになればと期待している。

組合は、平成10年に県産木材の需要拡大のために、県産木材の生産―加工―流通―消費にかかわる各分野が連携し県産材利用のトータルシステムを構築することを目的に設立され、本県の住環境に適したプレカット木材の提供を行っている。

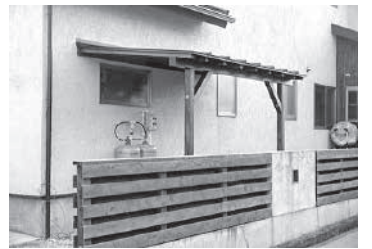
プレカット工場の責任者である戸栗哲也理事は「県内の建設業者や住宅を建てたい方から支持され続けるためにはどうすれば良いか常に考えている。これまでも、建築主の希望に応じて、使用する木材やプレカット加工の工程を見せるなどの消費者向けの取り組みを行ってきた。また、毎年、甲府工業高校や若草中学校から短期のインターンシップや職場見学会の受け入れも行ってきた。若い世代に県産材利用の重要性を知ってもらい、将来の木材関連業界の担い手づくりや職業意識の

醸成のために、さらにインターンシップや職場体験の受け入れを積極的に進めていきたい。」と語る。

組合では、県産材の多面的な活用を目指して、リフォーム相談、駐輪場サイズの庇(ひさし)、外構フェンス、木製テーブルの作成などオーダーメイドの木製品の製造も受けている他、近年注目が高まっている薪ストーブやペレットストーブの紹介、燃料となる薪やペレットの販売も行っている。また、一般利用が可能な研修施設もある。

◆詳しくは、山梨県木材製品流通センター(協)

☎055-284-8888 まで



オーダーメイドの庇・フェンス例

組合まつり in TOKYO

～8月30日の開催に2組合が出展～

●山梨県ワイン酒造協同組合・富士吉田織物協同組合

TOPICS

山梨県ワイン酒造協同組合と富士吉田織物協同組合が、8月30日に東京国際フォーラムにおいて開催された『組合まつりin TOKYO』に出展した。

このイベントは、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、全国各地の中小企業の受注機会や販路開拓、新製品・新サービスの開発促進などの新たなビジネスチャンスの拡大を



まわつスカーフの巻き方を実演

図る「中小企業世界発信プロジェクト2020」と連携して、東京都中小企業団体中央会が全国

各地の中小企業組合に呼びかけ、初めて開催した。

屋内外の2会場に、東京都をはじめ全国から88組合・団体が出展し、約2,500人の来場者が訪れた。屋内会場は、組合PRや展示・販売、匠の技、地域の特産物、ものづくり技術などの7つのゾーンに分けられ、来場者は足を止め出展者の説明に耳を傾けたり、地域の特産物の試飲や試食を楽しんだ。

また、屋外広場ではキッチンカー事業協同組合が全国の名物を取り揃え、来場者や近くで働いているサラリーマンやOLからの注目も集めた。

本県からも2組合が出展し富士吉田織物協同組合の(有)カシワギは、先染めで細番手の糸を高密度に織った「ふじやま織」によるネクタイ、国産絹100%で軽くて通気性と保湿性を備え柔らかな人気商品「まわつスカーフ」の展示・販売を行った。

山梨県ワイン酒造協同組合からは東農洋酒(株)、



盛況な山梨のワインの試飲ブース

モンデ酒造(株)の2社が出展。甲州や人気ワインの他に手軽な缶ワインや数量限定で山梨県内のみ販売のスパークリングワイン等を揃えた試飲・販売を行い、終始人だかりが絶えなかった。

全国の組合が一同に会するイベントは初めてで、会場内では他の組合と連携しようと名刺交換や情報交換する姿も目立ち、新たなビジネスチャンスの拡大に繋がる機会となった。

認定経営革新等支援機関との情報連絡会議を開催

山梨県中小企業団体中央会
ものづくり支援センター

ものづくり補助金事業の地域事務局を務めている山梨県中央会ものづくり支援センターでは、9月11日にベルクラシック甲府で、平成27年度のものづくり補助金において公募申請支援を行った認定経営革新等支援機関(認定支援機関)による情報連絡会議を開催した。

本情報連絡会議の開催は、ものづくり試作開発事業に取り組んできた事業者が補助事業終了後にも事業成果を活用し経営力の強化や発展に繋げるための



フォローアップ支援体制を強化するため、関係機関が保有するノウハウや各種情報を共有し支援を着実に進める仕組みをつくることを目的に開催したもの。

当日は、県内11カ所の認定支援機関の担当者に加え、関東経済産業局と全国地域事務局である全国中小企業団

体中央会、山梨県産業技術センター、よろず支援拠点から合計26名が出席した。

会議では、関東経済産業局から、中小企業政策審議会中小企業経営支援分科会の資料に基づき中小企業支援機関の役割等の説明、全国地域事務局から認定支援機関の補助事業者への支援状況及び要望等を調査に基づき説明が行われた。県産業技術センターとよろず支援拠点からは、それぞれが行っている支援内容や施策の活用方法について説明が行われた。

出席した認定支援機関の担当者からは、ものづくり補助金に対する認定支援機関としての課題や問題点、取り組み状況等が説明され、「今後は関係機関と連携を深め、ものづくり補助金に関する情報を共有し、支援に繋げていきたい」などの意見もあり、認定支援機関・関係機関・補助事業者の連携の必要性を再確認することができた。

中央会では今後も引き続き、ものづくり試作開発事業に取り組む事業者へのフォローアップ支援を着実に進めることのできる環境を整備するとともに、各認定支援機関等に対して積極的に情報を提供することで連携による支援を強化していくこととしている。

本年度の補助対象組合を決定！

平成29年度取引力強化推進事業の選考委員会を開催

中央会では、去る8月24日、平成29年度取引力強化推進事業の補助対象組合の選考委員会を開催し、企業組合ふるさと旬菜森樹(田中洋子理事長 組合員11名)と山梨県生花商業協同組合(山本幸男理事長 組合員58名)の2組合を助成対象として決定した。

この事業は、小企業者組合※の行う共同事業の活性化や受注拡大等、取引力の強化促進を図るための取り組みに対して、事業対象経費の2/3以内で50万円を上限に補助するもの。

「企業組合ふるさと旬菜森樹」では、組合で運営するレストランの店舗コンセプトを再検討した上でメニューを刷新する事業に取り組む。近年、山梨県は「移住したい県」の上位となっており、特に組合がある北杜市の注目度は上がっている。都会からの観光客も多数訪れていることから、今回のメニュー刷新により、来店客に評価される店舗づくりを行い、レストランの売上アップ、それに伴う給与アップを図ることを目的としている。

「山梨県生花商業協同組合」では、組合員の生花店がPRしたい情報と顧客が求めている情報とをマッチングさせた販促用リーフレットを作成し、組合員の顧客拡大を目指す。生花店は家族経営が多く、個店ごとでは十分な販促活動が行えない状況にある。また、生花店ではなくスーパーやホームセンターなどの量販店の店頭で購入する消費者も増えている。そこで、組合として変化している顧客ニーズにあわせた生花店情報を載せた販促用リーフレットを作成し、組合員が苦慮している販促活動を組合がサポートすることを目的としている。

選考委員からは、「単にメニューを変えるパンフレットを作成するというのではなく、助成事業の取り組みを組合及び組合員の事業に効果的に活かすツールとするためどのようにしたらよいのかを十分に検討して事業展開を図ってほしい」との意見が出され、事業効果についての期待が寄せられた。

※補助対象となる「小企業者組合」については、中央会／連携組織課までお問い合わせください。

補助対象組合と事業テーマ

補助対象組合	事業テーマ
企業組合 ふるさと旬菜森樹	企業組合レストランのメニュー刷新による経営力の強化
山梨県生花商業 協同組合	組合組織を活用した顧客ニーズ調査並びに販促効果のある顧客向けリーフレット作成

各業界の情報を共有し、ビジネスに活かす！

～ 組合等青年部の「代表者会議」を開催 ～

● 山梨県中小企業団体青年中央会 ●

山梨県中小企業団体青年中央会(矢部兵衛会長 23青年部会員)は9月13日、組合青年部の代表者による会議を開催した。この会議は、青年部の活性化や青年部会員同士の情報交換、ネットワーク強化を目的に毎年開催しているもので、本年度は13青年部から19名が参加し、各青年部活動の状況や各業界の動向等についての報告と情報交換が行われた。

最近の青年部活動では、会員のニーズに合わせた「教育研修」や「視察研修」の実施が多く、また人材確保のため高校へ出向いての業界のPR活動、取引状況の改善を目的に取引先も含めた交流事業を実施している青年部もあり、社会状況の変化を見据えた活動をしている青年部が増えつつある。

また、社会的に大きな影響がありそうな業界情報の提供も行われた。

塗装業界からは、建築物等の内外装仕上げに用いられてきた「石綿含有仕上塗材」の問題について説明があった。昭和期のほとんどの建築物に石綿含有仕上塗材が使用されており、建築物を解体する際、石綿含有の材料が含まれていた場合、通常の解体費用に加え国が求める石綿飛散防止作業が発生するため、費用が高額になりかねないとの注意喚起があった。

食品製造業界からは、食品の衛生管理向上のため「HACCP(食品衛生管理システム)」の義務化が進められているとの説明があった。現時点ではHACCPに関する明確な基準は示されていないものの、今後は更なる衛生管理が必要となる。あわせて、国民生活の安心・安全の観点から、生産、加工、消費の全てにトレーサビリティ(traceability生産-流通-消費-廃棄の全段階にわたって追跡可能な状態)が求められるようになりつつあり、食品関連業者だけでなく全業種で取引先を含めた

事業の再点検が必要となってくるとの説明があった。

矢部会長は「様々な業界団体の青年部が会員となっている青年中央会の組織力を活かして、各青年部が持っているニッチな業界情報を共有し、各業界のビジネスチャンスに繋げていく取り組みにしたい。」と、本会議の意義について語った。



情報BOX

やまなし消費者志向経営セミナー

～ 企業の持続的な発展のために ～

“消費者志向経営”とは何か、そして、なぜ、今求められるのかを、積極的に“消費者志向経営”に取り組む企業事例も紹介しながら、実践に役立つ情報や注意したい消費者関連法令のポイントについて、講演します。

開催日時 平成29年 11月10日(金)
13:30～16:10(受付 13:00～13:30)

参加費 無料

開催場所 甲府市総合市民会館
3階大会議室(定員150名)
甲府市青沼3-5-44 TEL:055-231-1951

■講演1「消費者志向経営の推進について」
講師：消費者庁 消費者調査課長

■講演2「お客様の声を活かした消費者志向経営の推進」
講師：(公財)消費者関連専門家会議(ACAP) 専務理事

■講演3「知っておきたい消費者関連法令」
講師：埴原法律事務所 弁護士

●申込み方法……詳しくは、ホームページをご覧くださいか、お電話でお問い合わせください。

●申込締切日……10月27日(金)

●主催・問い合わせ先 山梨県県民生活センター TEL.055-223-1571 URL http://www.pref.yamanashi.jp/kenminskt-c/h29_seminar.html

NEW! 「生産性向上支援訓練」のご案内

- ◆企業の生産性向上に必要な生産管理、品質管理、原価管理、物流、IoT、組織マネジメント、マーケティング等に関する知識やスキルを習得するための訓練です。
- ◆新任層から管理者層まで、幅広い階層に対する36種類の訓練カリキュラムをご提案いたします。
- ◆条件を満たせば、人材開発支援助成金が利用できます。

訓練時間	講師
12～30時間	生産性センターが民間機関等に委託
訓練会場	受講料(税込)
受講企業の会議室や外部の研修施設等	12～18時間コース:5,400円 19～30時間コース:6,480円

▶詳しい内容につきましては、お気軽にお問い合わせください。

生産性向上人材育成支援センター

(ポリテクセンター山梨内)

担当：窪田、沓間、名取

〒400-0042

山梨県甲府市中小河原町403-1

TEL 055-242-3066

FAX 055-242-3068



ポリテク山梨 検索

インターンシップ 体験記

中央会では、学生の就業意識を向上させることが将来的な県内経済の発展に寄与するとの考えから、毎年8月に大学生のインターンシップを受け入れています。その学生のレポートです。

訪問企業 ▶ 一般社団法人 山梨県鉄構溶接協会

●山梨学院大学 法学部 政治行政学科 2年 堀内 昂

(一社)山梨県鉄構溶接協会では、リベットとボルトによる接合構造の東京タワーと、溶接による接合構造の東京スカイツリーでの強度の差についての説明を聞き、溶接の強さを学びました。溶接が鉄骨を組み上げるための技術のひとつであることは知っていましたが、接合方法の違いで高さ300mもの差が出るほど溶接が強いとは思いませんでしたのでとても驚きました。

また、その技術を用いて山梨県庁防災新館や県立図書館といった普段利用している建物の構造が支えられていると聞き、身近に企業の眼に見えない活躍を知ることができました。

インターンシップを通して、様々な業種の団体や企業を訪問し、代表の方々からは企業の将来の目標と仕事のやりがいについて教えていただきました。県内の中小企業の活躍で、住みやすい社会が創られ、私達の日常が成り立っていることにあらためて気付くことができ、これから就職活動をする上でとても良い経験になりました。この経験をもとに山梨の発展を担えるような人材になりたいと思います。

訪問企業 ▶ 株式会社 荒井建材

●山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科 2年 佐野 ひかる

(株)荒井建材が生産する砕石や再生骨材は、私達の生活に必要な不可欠な資源だと初めて知りました。より質の良い石材を採石するために、山を切り、崩し、削らなければなりません。それまで山の本木を切り採石することにマイナスなイメージを持っていましたが、荒井社長や山梨県山砕石事業協同組合の仲田専務理事の話を聞き、新たな考え方や視点を持つことの重要性を身に付けることができました。

インターンシップを通して、自分の表面的なイメージで業種や職種を決めてはいけないことを身に染みて感じました。情報収集をし、現地へ足を運び、そこで働く人達の声を聴くことが重要だと考えました。5日間で学んだ事や知識を忘れず、就職活動に励んでいきます。



左から、堀内さん・佐野さん

この美しい自然を守るために。

人もトラックもエコドライブを心がけ今日も走り続けています。

山梨県には富士山、ハケ岳をはじめとする雄大な山々や、湖、渓谷など、多くの美しい自然が溢れています。ではこの美しい自然を守るために何が出来るのか？ハイブリッド車、天然ガス自動車など環境に優しいトラックの導入をはじめ、アイドリングストップの遂行や蓄熱式マットの使用、整備・点検を怠らないことや、環境活動への参加、そしてドライバー一人ひとりの運転マナー向上のための教育など、様々な角度から、自然を守る取り組みを行なっています。そしてこの取り組みはこれからも続けていくことは言うまでもありません。

平成28年度環境標語最優秀作品

トラックで希望と夢を運んでつくる
自然豊かなぼくらの未来

(一社)山梨県トラック協会・(公社)全日本トラック協会 後援/山梨県 関東運輸局山梨運輸支局

Yamanashi Chuo Bank 山梨中銀 <https://www.yamanashibank.co.jp/>

地域活力強化ファンド

地域ブランド産業
医療・介護ビジネス
環境配慮
観光ビジネス
事業承継 M&A
モノづくり
農業
etc...

地域活力強化ファンド
幅広い資金ニーズにご利用いただけます。

山梨中央銀行は、地域ブランド産業や成長分野ビジネスに関する取り組みを応援いたします。ぜひお気軽にご相談ください。

取扱期間 平成30年3月31日まで

※ 審査の結果、ご希望にそえない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

※ 取扱期間中でも、総額が800億円に達した場合は、お取り扱いを中止させていただく場合がございます。

◎ くわしくは山梨中央銀行の窓口またはフリーダイヤルへどうぞ。

☎ 0120-201862(照会コード:9) 受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)

情報BOX

「ものづくり補助金成果事例発表会」のご案内

平成24年度補正から平成27年度補正ものづくり補助金の活用事業者は、国内外のニーズに対応したサービスやものづくりの新事業を創出し、革新的な設備投資やサービス・試作品の開発を行って来ました。補助事業の成果・実績を広く県内外に知って頂く場として、山梨テクノICTメッセ2017に出展を行いますので、ご来場をお待ちしております。



- 実施期間 平成29年11月9日(木)～11日(土) 10:00～17:00
- 開催場所 アイメッセ山梨 甲府市大津町2192-8
- 出展予定 19社 (平成24～27年度ものづくり補助金取り組み事業者)
- 問い合わせ先 山梨県中小企業団体中央会(山梨県地域事務局) ものづくり支援センター TEL.055-237-3215

編集後記

10月になりました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋…。皆さんは、どんな秋を堪能されていますか？

朝晩はすっかり涼しくなってきたので、食事と睡眠をしっかり取って体調管理にはお気を付けてください。

●ご意見・ご要望は、
中小企業タイムズ編集班まで

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216
E-mail : webmaster@chuokai-yamanashi.or.jp

この印刷物は、ベジタブルオイルインクを使用しております。